

インターバンクの声（2014年10月15日）

昨日のドル円相場は、ロンドン時間に、米10年債利回りが低下する中、ドル円は106円60銭台まで下落した。ニューヨーク時間には米10年債利回りが2.20%を割り込む場面もみられたが、107円を挟む水準で東京市場に戻ってきた。一方、直近のユーロは、ドルに対し上昇を続けていたが、昨日に発表されたドイツZEW景況感調査が予想に反し弱かったことで反落した。ちなみにZEWの期待指数がマイナスとなったのは2012年11月以来のことだ。

本日は、15時にドイツ消費者物価指数の確報値の発表がある。速報値では、懸念されたほどの低下は免れたものの、下振れリスクにも依然として残る。また、16時よりドラギ総裁の講演も予定されており、仮に緩和政策に対して具体的な言及があれば、一段のユーロ安が進むかもしれない。ドル円は依然として短期的な調整局面と見る向きが多いが、投機勢はまだドル円の買い越しポジションを保有しているようで、更なる調整が入る可能性も否定できない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。